

「京都府農林水産業人材確保・育成ネットワーク」キックオフイベントの開催結果について

令和 7 年 6 月 4 日
京都府農林水産業人材確保・育成センター
(事務局：経営支援・担い手育成課)

6月3日(火)に「京都府農林水産業人材確保・育成ネットワーク」のキックオフイベントを開催しました。ネットワーク参画団体に加え、農林水産業の各分野の関係者等も多数参加し、非常に盛況となりました。今後、魅力ある京都府農林水産業の実現に向け、ネットワークと連携し、育成すべき担い手に応じた多様なメニューの提供や施策の評価・検証を進めます。

記

- 1 趣 旨 令和7年3月に策定した「京都府農林水産業人材確保育成戦略」に基づき、産学公民の多様な主体との連携により農林水産業の人材の確保・育成に取り組む「京都府農林水産業人材確保・育成ネットワーク」の始動を宣言し、参画団体等の関係者が一堂に会して、趣旨とビジョンを共有する
- 2 日 時 令和7年6月3日(火) 13:30～17:00
- 3 場 所 K B S ホール(京都市上京区烏丸上長者町 K B S 京都放送会館1階)
- 4 出席者 ネットワーク参画団体、農林水産業関係団体、農林水産業経営体、就業希望者、府関係者等 合計 235 名
- 5 内 容 (詳細は別紙のとおり)
 - 開会あいさつ：京都府知事 西脇 隆俊
 - 趣旨説明及び参画団体の紹介：農林水産部理事 小塩 佳市
(参考：ネットワーク参画団体 25 団体(6月3日時点))
 - 基調講演：日新電機株式会社 顧問 小畑 英明 氏
「企業における人材の確保、育成を行う上で大切なことと農林水産業について」
〔企業で取り組んでこられた人材育成施策を基に、これからの農林水産業における人材確保・育成に必要な考え方等のアドバイスをいただいた。〕
 - パネルディスカッション「魅力ある京都府農林水産業の実現に向けて」
進 行 役：(株)ウエダ本社 代表取締役社長 岡村 充泰氏(共生社会)
パネリスト：(株)あしだ 取締役 芦田 拓弘氏(林業：Uターン、家業後継)
海の民学舎1期生 黒木 祥訓氏(漁業：Iターン、独立就業)
A T R 代表取締役副社長 鈴木 博之氏(高度技術)
D-matcha(株)代表取締役 田中 大貴氏(茶業：Iターン、創業)
京都女子大学 副学長 中山 玲子氏(女性活躍・大学連携)
〔農林水産業の各分野や民間研究機関や女性活躍等の視点で、農林水産業への思いやこれからの農林水産業に求められる担い手像について、ディスカッションした。〕
 - 交流会(名刺交換会)
〔今後の連携や情報交換のきっかけを作るため、参加者間の交流の機会を設けた。〕



知事あいさつ



小畑氏基調講演



パネルディスカッション



交流会

■基調講演（小畑氏）の概要

○住友電工や日新電機で人事改革や人材育成に取り組んだ経験

- ・IT バブル崩壊の危機を乗り越えるため、成果主義導入等の人事制度改革を断行。
- ・「日新アカデミー」や「経営者ゼミ」「高度技術者育成カレッジ」などを設立し、社員全員の成長意欲を高めるとともに、経営層や技術者の育成を推進。

○教育の成果を活かす仕組みづくりの重要性

- ・教育の効果を挙げるには、教育を受けた人が活躍できる「仕事・ポスト・処遇」の整備、すなわち“出口”を明確にすることが不可欠。
- ・女性や若者にも平等にチャンスを与え、実力に応じた登用を行うことが重要。

○農林水産業への応用と提言

- ・「探求型の仕事」を提供できる農林水産業は、若い人の採用において有利になる。
- ・若い人に魅力ある農林水産業には、企業と同様に、教育を軸とした総合対策が必要。
- ・自己成長願望の強い若い人に訴求できるよう、経営主体の集約や株式会社化などを進め、教育を受けた人が活躍できる「場」を増やすことが重要。

○京都府農林水産業人材確保・育成戦略とネットワークへの期待

- ・同戦略は、「課題」と「対策」が明確にリンクした完成度の高い戦略。
- ・「京都府農林水産業人材確保・育成ネットワーク」が、農林水産業関係科を持つ高校等と連携した実践的な教育の提供や、リーダーや経営者を育成するエコシステム構築などにおいて、役割を果たすことを期待。

■パネルディスカッション（各登壇者の主な発言）

○岡村氏（進行役、㈱ウエダ本社）

- ・ローカルスタートアップ協会を運営し、一次産業のベンチャーを支援している。
- ・第一次産業には豊かなシーズ（種）や宝があり、多様な可能性を秘めている。
- ・一次産業＝生産者だけでなく、様々な人が参加するネットワークが重要。
- ・技術の進化と新しい働き方が一次産業を変革すると考える。

○田中氏（茶業、D-matcha㈱）

- ・東京出身、和東町に移住し抹茶ビジネスを創業。売上の9割が海外輸出。
- ・世界中からインターンシップを受入れ（25人募集→400人応募）、SNSで情報発信。
- ・農業は毎年状況が違い自分で考える楽しさがあり、研修生にもそうした機会を提供。
- ・「3か月だけ」など、柔軟な考えで農業に関わる選択肢があってもよいのでは。

○芦田氏（林業、㈱あしだ）

- ・林業家の3代目として、プラントエンジニア等の経験を経て家業の林業に就いた。
- ・林業は消費者から遠い産業であり、消費者と林業をつなぐシステムづくりが重要。
- ・木材流通システムで、林業から消費者までを一気通貫でつなぐプロジェクトを推進。
- ・家具などの製品づくりでは、山や木の歴史、ストーリーを伝えることが重要。

○黒木氏（漁業）

- ・サーフィンが好きで、京都府漁業者育成校海の民学舎で学び、漁師に転身した。
- ・自然の中で働く環境や自分の工夫で成果が出る達成感に魅力を感じている。
- ・漁業は狭いコミュニティであり、参入にはコミュニケーション力が鍵となる。
- ・SNSなどでの情報発信が人材確保に有効だと考える。

○鈴木氏（ATR）

- ・砂栽培の研究や林業機械の自動運転技術など、農林水産業への先端技術導入を実施。
- ・農林水産業は先端技術導入が遅れており、農林水産業の現場のニーズを知りたい。
- ・アグリテックは世界的な成長分野。食のパーソナル化がトレンド。
- ・若い人にアントレプレナーシップを持って農林水産業に参入してほしい。

○中山氏（京都女子大学）

- ・大学では女性リーダー育成に取り組み、食分野での女性活躍の必要性を感じてきた。
- ・基幹的農業従事者の多くが男性だが、女性が参画する経営体は生産性が高い傾向。
- ・女性参画促進には、機械化による労力軽減や、お手洗い、更衣室等の環境整備が必要。
- ・仕事と育児・介護の両立支援も女性参画の鍵になる。